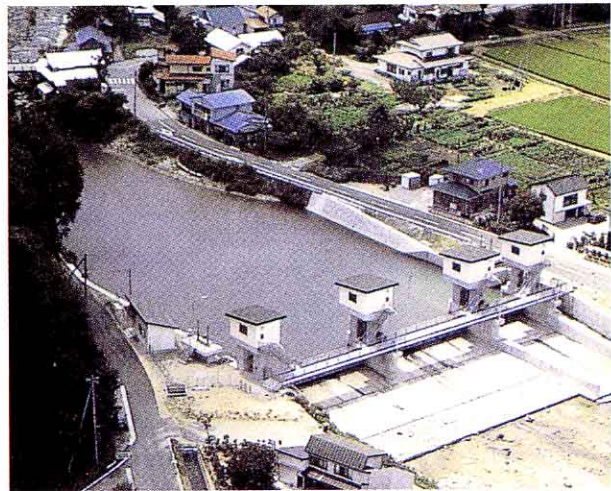


しばせき
柴堰

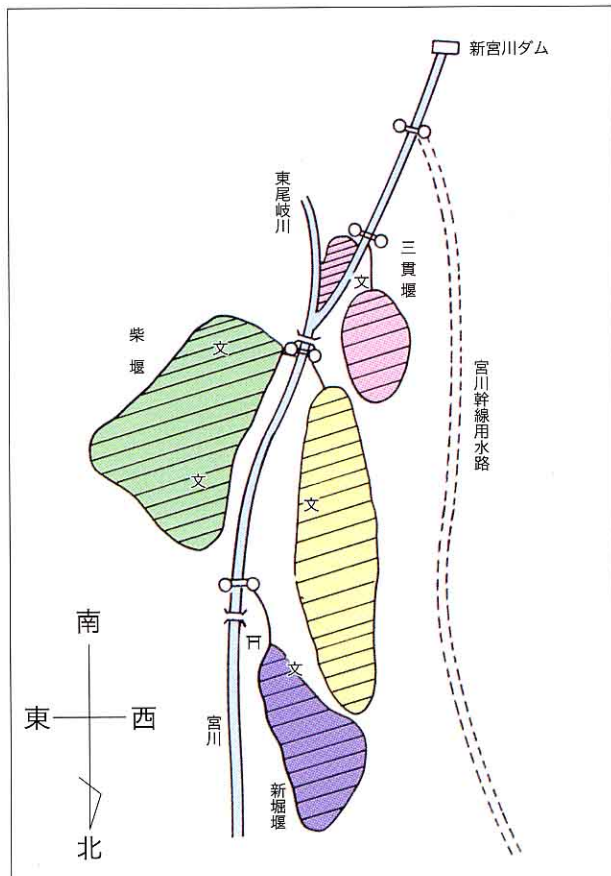
この堰は、^{みやかわ ひがしおまた}宮川と東尾岐川の合流する尾岐地区^{ごうりゅう ちく}の高橋にあります。この堰は古い歴史^{れきし}があり、1500年代につくられたとのことです。この堰水は^{あさひ ふじかわ}旭地区・藤川地区の用水となり、^{ほんごう たまじ}会津本郷町玉路地区をもうるおしました。この堰は、川を川石や青柴でせき止めたかんたんなものであったので、柴堰の名がついたといわれています。

この堰の下に高田堰・永井野堰^{なが}があったため、江戸時代の終わりごろから水の権利^{けんり}をめぐる^{あらせ}争いが起こりました。しかし、昭和35年に三つの堰を合わせて大堰をつくったので、いまは争うことがなくなりました。平成8年には大規模な改修工事が行われ、これまでよりもたくさんの水をたくわえることができました。



▲柴堰（高橋頭首工）

堤の用水の利用地域



▲高橋頭首工の用水利用地域